

を生み出したのです。

今、日本の各地でオープンガーデンが開かれるようになってきました。その趣旨には活動を通じてコミュニケーションの輪が広がり、自宅の前庭から街並みが美しくなればという願いが込められています。オープンガーデンに参加して痛感したのはその維持管理の大変さです。植え付け、水遣り、草取り、選定どれをと

っても時間と労力のいる仕事です。徳之島を花でいっぱいにする活動は地域の方々の協力なしでは成り立たない事を痛感します。

そして徳之島の自然にも目を向けて欲しいと思います。島にはガジュマル、松、クロトン、つつじ、イジュ、鉄砲ゆり、グラジオラスなどが自然の中で手がかけなくても時期になれば花を咲かせ私

達の目を楽しませてくれます。幼い時、山でエビネの群落を見た事があります。薄暗い森の中でそこだけ光が当たっていた幻想的な光景、今は無くなってしまったそんな光景を子供達に見せたい。徳之島の自然と人々の生活が調和した花いっぱい活動にできれば、というのが私達の願いだと思えます。



ンを付けて聞かせて頂きました。長生きするには、福田さんを手本にしたいものです。

闘牛フェスティバルが平成十九年六月二三日(土)〜二四(日) 福岡県筑後市羽犬で開催された。

闘牛フェスティバルで徳之島をアピール

元関東花徳会会長 信 寛良



右から前徳之島町長、伊仙町長 天城町長

これは、福岡県春日市で建設業を営む澤田淳一氏が企画、徳之島の闘牛関係者が実行委員会を組織して開催、徳之島から三町長も応援に駆けつけた。牛は、徳之島は勿論、沖縄、

全国的な大イベントであった。闘牛と合わせて徳之島物産展も開催され、サタチクイ(黒砂糖づくり)や浜踊りを披露

するなど徳之島をアピールした。闘牛フェスティバルに先立って船小屋(源氏蛸の発祥に地)温泉共和国での前夜祭は、全国から集まった徳之島出身の郷友で盛り上がった。

私は、前夜祭で福田喜和道さん(93歳、亀津南原出身)とお会い出来たのがとても嬉しかった。

福田さんは、高齢になっても矍鑠(かくしゃく)として、毎日、牛の"草刈"を欠かしたことが無いそうです。

さすが、全島一を何頭も育てた真骨頂です。福田さんは、鳥唄の名手でもあります。得意の「鳥朝花」にサンシ

亀津南区の浜踊り保存会の一人の伯母さんが、「ウイヤダーダレンガ」と聞くもですから、「キドウ(花徳)」と答えると「鳥ヌチユチイ思テイカ、カナハンムンダ(鳥出身の人と思うと懐かしく思う)」とおしゃって下さったのが忘れられません。

牛たちは旅の疲れも見せず激しくぶつかり合い、死闘を繰り返した。角と角、額と額がぶつかり合う鈍い音が聞こえるたびに観客から歓声があがったりした。

特設リングには、野球場のようにバックスクリーンがあり、

タイムリーに技の掛け合いなどを解説してくれたのは、都会の人に判りやすかったと思う。

山古志村の勢子は、牛の後ろ足に縄をかけて牛を分ける(はがす)術を披露した。

徳之島でなく都会で闘牛見物ができるのは、とても有り難いことである。関係者に感謝を申し上げたい。

帰路は、折角ここまで来たのだからと思って福岡市内から一時間ほどかかる福岡天満宮にお参りして帰った。